

年度	令和5年度（中期計画2年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	衣食住について専門的に学び「生きる力」を培い、農業系・家庭系の未来のスペシャリストを育成する。 （具体像） 1 生徒が自己実現、進路実現できる力を育成する。 2 生徒の専門分野の知識・技能を伸ばさせる。 3 奈良県の農業科教育、家庭科教育の中核として、その実践・成果を発信していく。
年度重点目標	(1) 基礎的・基本的事項、専門的知識・技術の定着を図り、スペシャリストに求められる創造的な能力と実践的な態度を育成する。[職人技に支えられた授業] (2) 人権尊重の心をはぐくみ、基本的な生活習慣を確立させるとともに、個々に応じた進路指導を徹底し、社会で自立できるための力を養う。[いじめ・体罰のない学校] (3) 生徒が輝ける場を設定し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、成就感や達成感を体得させることにより、自信と誇りをもてる生徒を育成する。[プロジェクトの推進] (4) 地域との交流を積極的に推進し、農業系・家庭系の専門高校としての総合力を広く県民に示し、本校の知名度の向上を図る。[魅力を感じる情報の発信]

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 ①笑顔の絶えない生き生きとした生徒＝「和顔」 ②がまん強く最後までやり遂げる生徒＝「堅忍」 ③新しいものに積極的に取り組む生徒＝「創造」
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	【全科共通】 ①各専門分野における資格取得に加え、就職や進学など多様な進路希望に対応できるよう、柔軟な教育課程の編成を行います。 ②第3学年に「課題研究」を設定し、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につけさせます。 ③専門科目では、少人数指導並びにチームティーチングを導入し、きめ細かい個別指導を行います。 ④学校外のスペシャリスト（大学講師など）の授業を導入し、より実践的な知識・技能を修得させます。 【農業系学科】 ①学科の特色を生かし、専門性に沿った進路に対応するためにコース制をとり、学校設定科目の導入や、学科間連携による選択科目を設定します。 ②各専門分野における資格取得・検定合格につながる知識・技能を修得させます。 ③学校農業クラブ関係の各種発表会・競技会参加に対応するために、実習とプロジェクト学習とを有機的に結びつける工夫を行います。 ④模擬株式会社の運営を通して、生徒が自ら企画し、実践する応用的・発展的な力を養成します。 ⑤3年時に、科目「総合選択」を設定し、学科の枠を越えた学習を行います。 【家庭系学科】 ①学科の特色を生かし、幅広い専門性を身に付けるため、特色に応じた学校設定科目を導入します。 ②フードデザイン科は厚生労働省の認可施設（認可基準を満たす施設）になっており、調理師免許取得・製菓衛生師受験資格取得につながる知識・技能を修得させます。
	育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1 専門的知識・技術を獲得し、スペシャリストに求められる創造的な能力と実践的な態度 2 自らの将来を切り開いていく態度及び社会で自立できるための力 3 生徒が活躍できるプロジェクトを設定し、成就感や達成感を体得することによる、自己肯定感の醸成 4 生徒会活動・部活動並びに地域との交流の積極的な推進による、コミュニケーション能力の向上

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和5年度末の目標値等（C）	令和5年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	健康教育の充実	保健だより各学期に1回以上発行し、生徒対象のアンケート項目「本校は健康や安全に関わる指導に積極的に取り組んでいると思いますか」で肯定的回答を90%以上にする。	保健だより各学期に1回以上発行し、生徒対象のアンケート項目「本校は健康や安全に関わる指導に積極的に取り組んでいると思いますか」で肯定的回答を85%以上にする。			
	食育の推進	食育新聞を各学期に1回以上発行する。食育に関心がある生徒の割合を70%以上にする。また、朝食を毎日食べる生徒を95%以上にする。	保健だより、食育新聞を各学期に1回以上発行する。食育に関心がある生徒の割合を70%以上にする。また朝食を毎日食べる生徒を70%以上にする。			
	体力の向上	体力テストにおける、合計点を県平均の95%以上にする。	体力テストにおける、合計点を県平均の90%以上にする。			
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現	生徒対象の学校生活に関するアンケートの授業関連3項目で、肯定的回答をいずれも90%以上にする。	生徒対象の学校生活に関するアンケートの授業関連3項目で、肯定的回答をいずれも80%以上にする。			
	教職員の資質向上	年度内2回学習指導研究月間を設定し、1人10回以上の授業見学を行う。 教育研究所等の研修に全教員が年間3回以上、参加する。	年度内2回学習指導研究月間を設定し、1人7回以上の授業見学を行う。 教育研究所等の研修に全教員が年間2回以上、参加する。			
	魅力と活力あるこれからの高校づくり	生徒・保護者対象のアンケート項目「本校には、他の学校にはない特色がありますか」で肯定的回答95%以上にする。	生徒・保護者対象のアンケート項目「本校には、他の学校にはない特色がありますか」で肯定的回答85%以上にする。			
	ICTを活用した教育の推進	全ての科目でICTを活用した授業を導入する。 「教員のICT活用指導力」の調査における、肯定的回答90%以上にする。	1・2年生の全科目と3年生の50%の科目でICTを導入した授業を導入する。 「教員のICT活用指導力」の調査における、肯定的回答85%以上にする。			
	学校における働き方改革	月1度の定時退校日を設定する。 ストレスチェックにおいて職場におけるストレス値の平均を95以下にする。	学期の2回以上の定時退校日を設定する。 ストレスチェックにおいて職場におけるストレス値の平均を100以下にする。			
	安全安心な教育環境の整備	毎月の安全点検を実施。発見された不具合の箇所を速やかに修復する。 各学期1回以上、避難訓練等を実施する。	学期に2回の安全点検を実施。発見された不具合の箇所を速やかに修復する。 年間2回以上、避難訓練等を実施する。			
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリア教育・職業教育の推進	キャリアパスポートを活用し、全生徒が具体的にキャリアデザインを描くことができる。 全生徒の70%がインターンシップを経験する。	リクルート「スタディサプリ for school」を活用し、生徒がキャリアデザインを早期から描くことができる。 インターンシップ参加者比率を全体の40%に近づける。			
	職業観の醸成を図るためのガイダンス	職業観の醸成を図るためのガイダンスを各学年1回以上開催する。	職業観の醸成を図るためのガイダンスを各学年1回以上開催する。			
	社会に役立つ実学教育の推進	生徒対象の授業アンケートにおける実習関連2項目で、肯定的回答をいずれも90%以上にする。 専門科目において、校外授業、社会人講師による授業を各学期1回以上実施する。	生徒対象の授業アンケートにおける実習関連2項目で、肯定的回答をいずれも85%以上にする。 専門科目において、校外授業、社会人講師による授業を各学期1回あるいは年間3回以上実施する。			
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	地域との連携・協議推進	地域学校協働活動を10事業以上設定する。	地域学校協働活動を10事業以上設定する。			
	地域社会に貢献する人材の育成	地域学校協働活動に全生徒の50%以上が参加する。	地域学校協働活動に全生徒の40%以上が参加する。			
	グローバル人材の育成	全生徒の10%以上が実用英語検定を受検する。海外の学校との交流事業を推進する。	全生徒の5%以上が実用英語検定を受検する。			
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	学校教育における人権教育の推進	保護者対象のアンケート項目「生徒に人権を尊重する態度を身につけさせようとしていると思いますか」で肯定的回答95%以上にする。	保護者対象のアンケート項目「生徒に人権を尊重する態度を身につけさせようとしていると思いますか」で肯定的回答90%以上にする。			
	いじめ・不登校等への対策	生徒対象のアンケート項目「本校の先生方は、いじめなどのない楽しい学校づくりに努めていると思いますか」で肯定的回答90%以上にする。	生徒対象のアンケート項目「本校の先生方は、いじめなどのない楽しい学校づくりに努めていると思いますか」で肯定的回答85%以上にする。			
	特別支援教育の推進	教育相談委員会・特別支援教育推進委員会を各学期1回以上開催し、支援を必要とする生徒の情報を共有し、個別支援計画を作成する。	教育相談委員会・特別支援教育推進委員会を各学期1回以上開催し、支援を必要とする生徒の情報を共有し、個別支援計画が必要な生徒について、統一した様式で作成し、支援の充実を図る。			
	多文化共生教育の推進	多文化共生に関するHR・講演会などを各学年1回以上設定する。	多文化共生に関するHR・講演会などを各学年1回以上設定する。			